

キャプティブソリューションのご案内

従来型保険への代替として

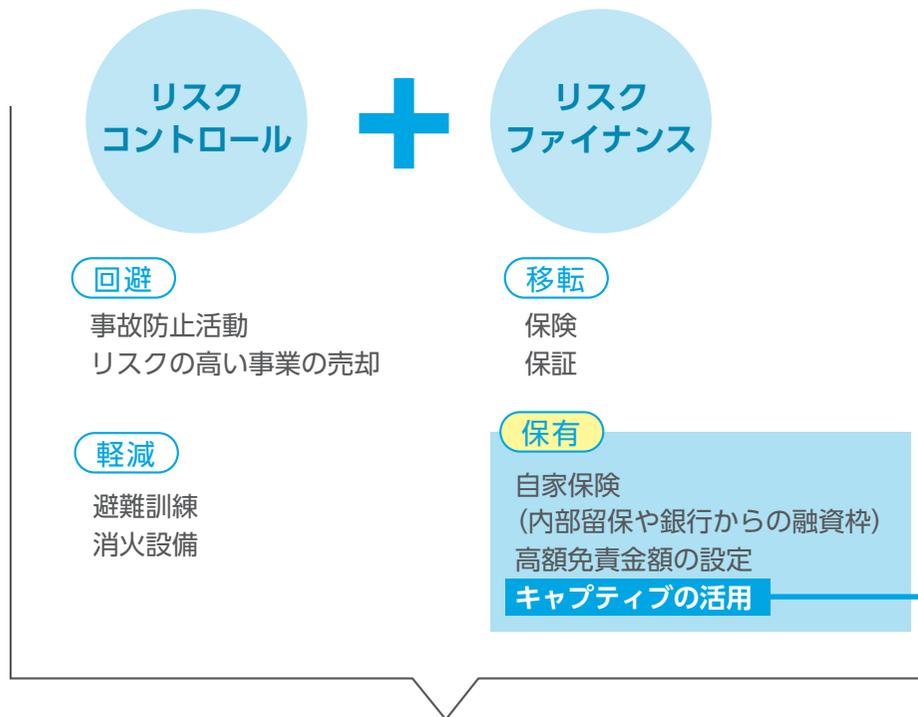
2021年7月版



企業経営を取り巻くリスクへの主な対応方法

リスクマネジメントにおけるキャプティブ

企業におけるリスクへの対応策



リスクマネジメント

戦略的保有

- 財務諸表への影響が小さい損害については、リスクを保有することにより、合理的に移転コストを抑制 (ex. 予測可能な高頻度小損害のリスク)
- 必要な補償範囲・金額の調達及び負担可能な保険料での保険手配が難しいリスクへの対応
- リスクの存在の未認識 (無自覚保有) の除去

リスクを把握し、リスクの回避、軽減、移転、保有の最適化を図ることが重要

キャプティブ保険会社とは？

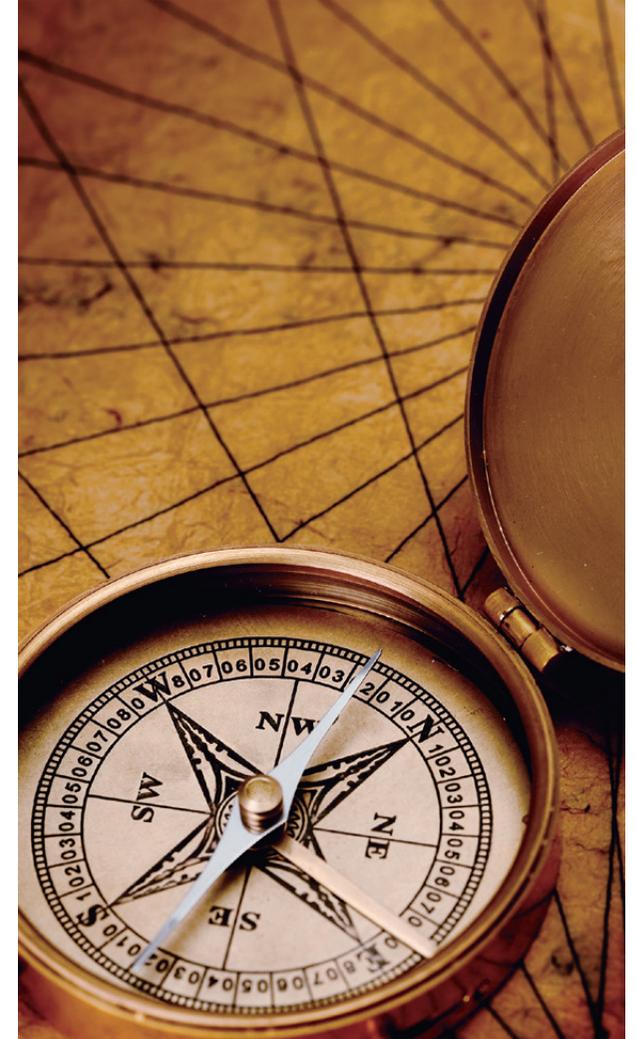
リスク保有のための有用なツール

キャプティブとは…

- 親会社およびその関連会社のリスクを補償することを目的とした再保険子会社
- 設立地の監督庁によって規制される組織

多くのキャプティブとは…

- 第三者のマネジメント会社によって運営
- 従来型の保険マーケットでは入手困難な補償内容や、親会社が自家保有を希望する時に有効
- リスクコストを中長期的にコントロールする目的で設立



企業がキャプティブを選ぶ理由とは？

企業がキャプティブを使う理由は、多くの場合リスクコストの効率化と企業全体のリスクコントロールを目的としているケースが多い

保険の必要性、リスクマネジメント

- 従来型の保険では入手困難な補償の調達
- 従来の保険マーケットへの依存からの脱却
- 再保険マーケットへのアクセス
- 効率的リスクマネジメントによるロスコントロールの促進

経済的合理性

- トータルコストの見直しによる削減
- 投資利益とキャッシュフロー
- 財務諸表プロテクション
- 税務計画
- 引受収益の可能性

企業の戦略として

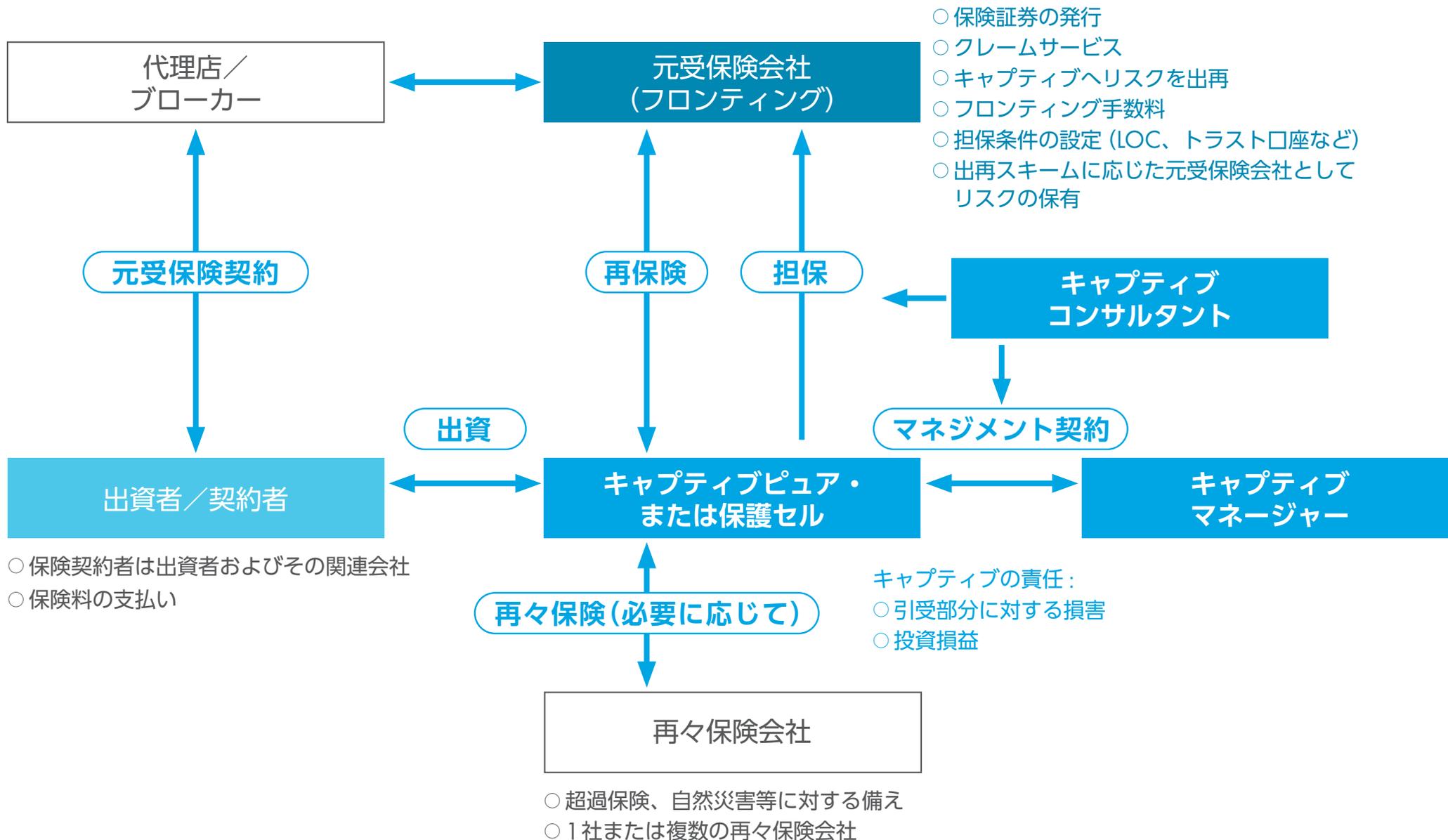
- 長期的な財務戦略
- 企業グループ全体の ERM
- ジョイントベンチャーや新たな国・地域への進出
- 顧客サービス充実の支援

キャプティブ活用に適さないリスク

- 低頻度少額損害リスク（小規模な案件）
- 保有することが適切でないリスク（回避した方が良いリスク）
- マーケットで競争的な保険料水準で付保できるリスク

キャプティブフロンティングプログラムの関係者図

キャプティブにおける契約関係



なぜキャプティブを使うのか？

キャプティブプログラムの実例

電子部品製造業

ある企業の CFO は取引先、特に一部の海外子会社の取引先の信用リスクに不安を抱いていた。海外子会社に通常取引信用保険を手配させようとしたが保険料が高額であるため、躊躇していた。CFO は本社と子会社のリスク保有耐性にかなりの差があることを認識していた。



子会社が主に被る小損害部分を本社が設立したキャプティブに出再してグループ内でリスク保有し、一定額以上の事故については保険に転嫁する包括の取引信用保険プログラムを構築した。

消費者向けサービス業

一般消費者の情報を多く扱うサービス企業において、ランサムウェアなどに代表されるサイバーリスクの高まりに懸念をいただいていた。グループ全体をカバーするために必要な高額キャパシティを確保することが困難な状況に直面していた。



サイバーリスクに対応するため、一定額までを自社キャプティブでリスク保有し、エクセスレイヤーを民間保険会社数社による引受とする保険プログラムの構築を行った。

携帯電話販売業

ユーザーに販売した携帯電話の破損・故障等が発生した場合における代替機の提供及び修理サービスを提供することにより、携帯電話の販売促進と顧客の囲い込みを考えていた。

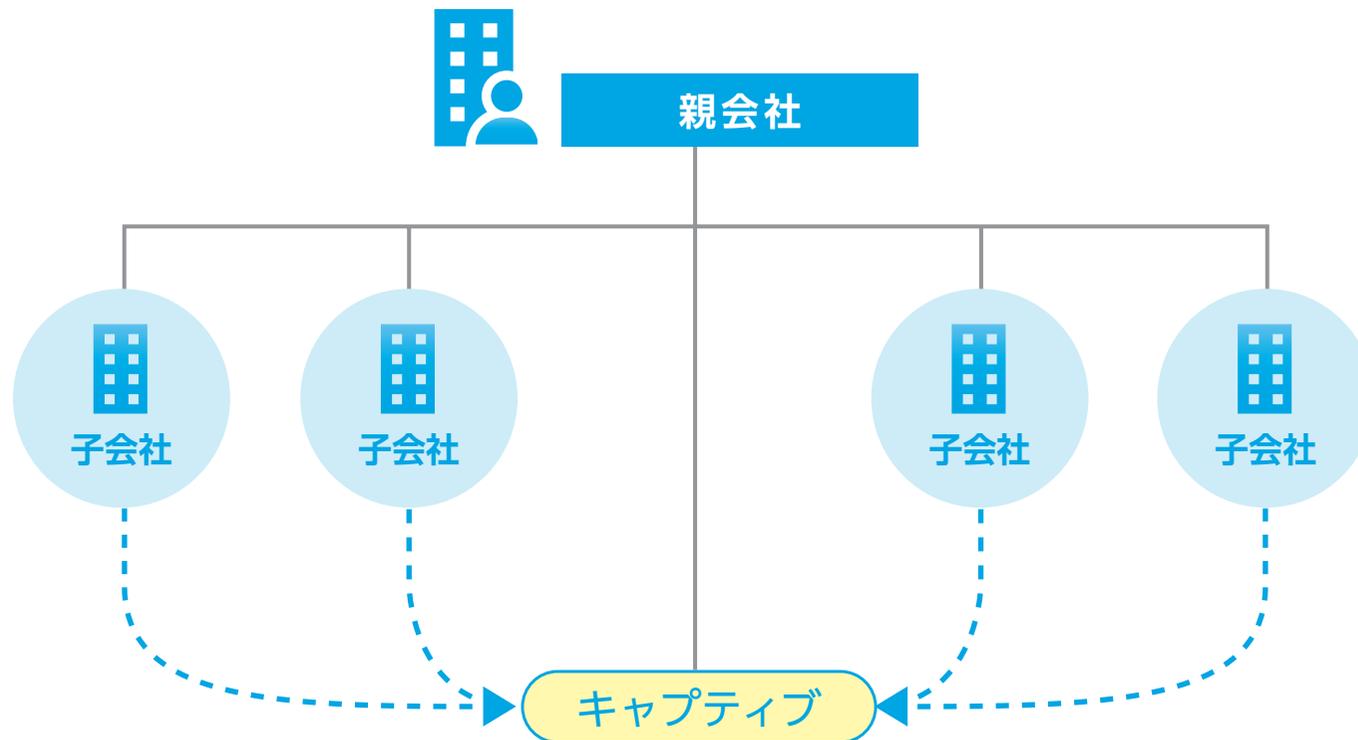


自社でリスクを保有することにより、保証サービスプログラムの長期安定的な運用を可能とし、ユーザーに対して切れ目のない通信サービスを提供した。

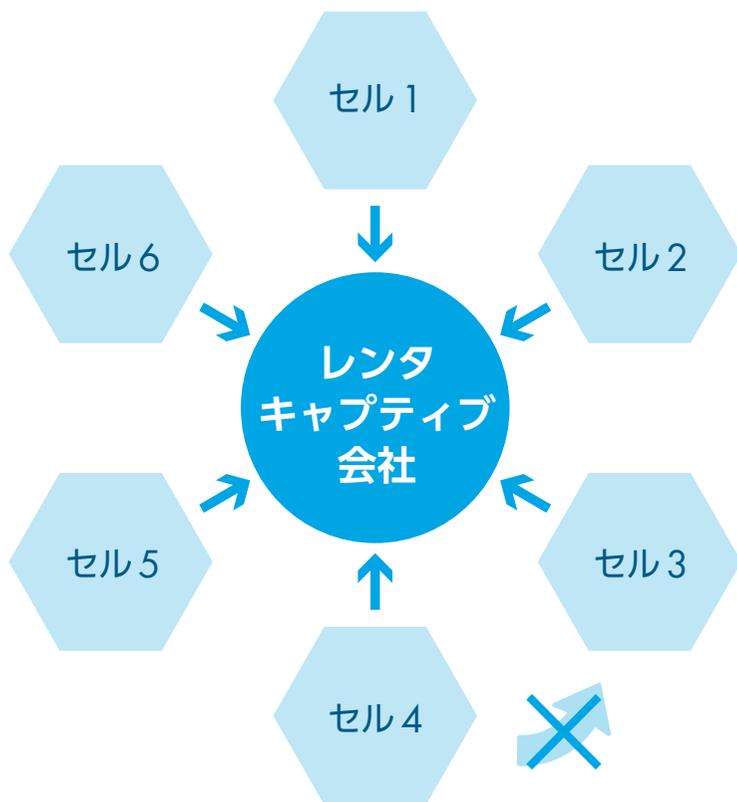
キャプティブの種類 — ピュアキャプティブ

最もシンプルで、最も多く活用されているキャプティブ

キャプティブ保険会社の親会社およびその関連会社のリスクのみを引き受けるキャプティブ
親会社が出資し、引受、再保険、投資方針などの決定権を持つ。



キャプティブの種類 — レンタキャプティブ／保護セルキャプティブ



セルオーナー

- 保険契約者がキャプティブを所有しなくても、セルを借りて、そのセルにリスクを引き受けさせることが可能
- 法人登記不要のため、簡便にキャプティブ保険会社のメリットを享受
- 資産は各セルごとに隔離・保護
- AIG は当ファシリティをバーモント州とバミューダに保有

メリット：

ローコスト、比較的早いスタート、簡易的な運営

ドミサイル(設立地) — どこにキャプティブを設立するか？

検討するに当たり重要なポイント

- **法規制:**
キャプティブに関する法律が整備されていること
- **インフラ:**
キャプティブ支援企業 (監査法人、法律事務所、数理士) が充実していること
- **費用とビジネス環境:**
運営費用、行政の支援
- **税務:**
現地及び日本の税法

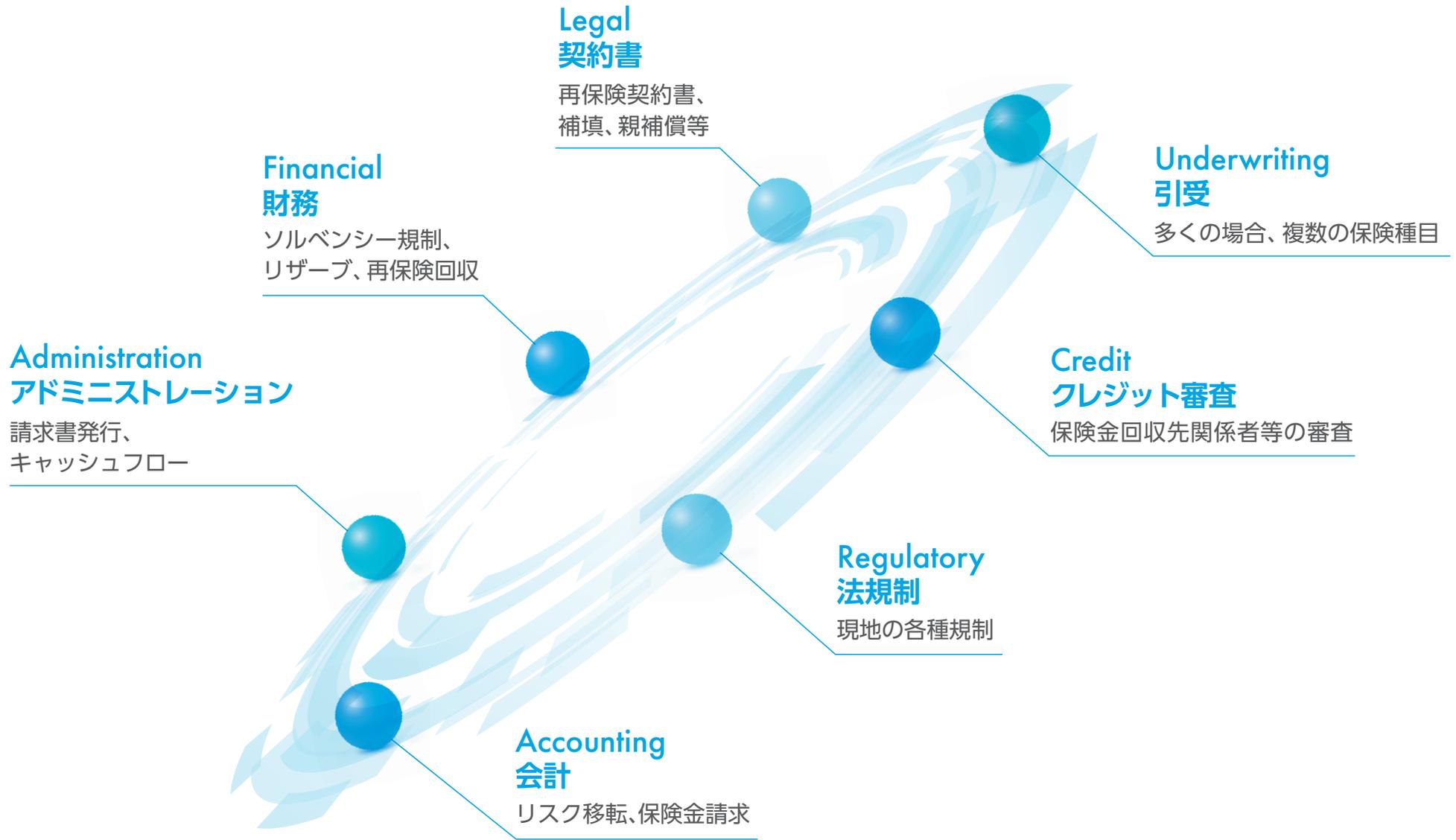
世界で有名かつ人気のあるドミサイル:

バミューダ、バーモント、ハワイ、ガンジー、ケイマン、ラブアン、ミクロネシア、マルタ、ジブラルタ

専門のキャプティブコンサルタントと
ご相談頂くことをお勧めします。



キャプティブの設立にあたり、様々な観点からの検討が必要



キャプティブ設立の主なステップ

キャプティブの検討、設立、運営の各段階における各種専門会社とその役割

情報共有と ディスカッション

元受保険会社

- キャプティブ設立の目的の確認
- 元受保険契約の設計
- (お客様がご希望の場合)
キャプティブコンサルティング会社、
キャプティブマネジメント会社の
候補の紹介

コンサルティング会社

- キャプティブ設立の目的の確認
- キャプティブ設立による利点と
懸念点の確認
- 保険プログラムのレビュー
- ドミサイルの初期レビュー

フィージビリティ・ スタディ

コンサルティング会社

- 採算性/リスク分析
- 引受リスクの妥当性の確認
- 法的側面の確認
- ドミサイルの分析
- キャプティブ設立の意思決定

キャプティブの 設立・引受開始

コンサルティング会社、マネジメント会社

- ビジネスプラン策定
- 申請書類作成/提出
- 監査/マネジメント体制決定
- 保険プログラム/オペレーション確定
- 保険関連契約書策定アドバイス
- 契約書等必要書類アドバイス
- 必要な専門家のアレンジ
(会計士、弁護士、数理士)

キャプティブの運営

マネジメント会社

- キャプティブドミサイルに所在し、
キャプティブ運営を受託
- 現地の当局からの許認可事業
- 再保険業務
- 当局へのファイリングや納税申告
- 必要に応じて、現地会計士、
弁護士、数理士などをアレンジ

コンサルティング会社

- キャプティブ運営の各種支援

AIG は、バミューダ等の主要地域にマネジメント会社を有し、欧米を中心とした多国籍企業へのサービスを行っています。

〈参考〉 保険会社のサービス・機能

保険会社の主なサービスや機能（保険金支払いを除く）*は以下の通り

	事故処理サービス	事故防止・防災サービス	リスク評価サービス
概要	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実際に発生した事故に対して、受付から処理、支払い、加害者からの回収にいたる一連のプロセスを保険会社が実施 ○ 米国における賠償責任クレームの場合は、AIGの訴訟管理プログラム（AIGのガイドラインによる弁護士報酬のコントロールシステム）も提供 ○ 保険会社は保険事故をプロセス管理するシステムを社内構築し、一部を顧客にも提供 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保険会社が数多くの顧客や被害者から受けている事故事例を基に事故の発生を防ぐための各種アドバイスを提供 ○ 保険種目によっては、事故発生時の顧客企業における対応方法等についての事前シミュレーショントレーニングを提供 ○ 専門の社内エンジニアが製油所、発電所等の各種プラントの防災アドバイスを実地で提供 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保険会社のエンジニア等が顧客企業の工場等を訪問し、リスク評価を実施し、評価レポートを提供（これらのレポートは高額のカパシティが必要な物件等のマーケティングにも活用される。）

保険会社は上記の業務を世界中の自社営業地域の顧客に対して提供しているため、これらの業務は非常に効率化・合理化されており、**事業法人が自社で行うよりも経済的**

欧米のグローバル企業はこれらの保険会社の合理化された機能を活用すべく、AIG等のグローバル保険会社をパートナーとして選び、**キャプティブフロンティグ（キャプティブの為に元受保険証券を発行する業務）**を依頼することが一般的

* 上記のサービスや機能をご利用の場合、サービスフィーが発生することがあります。

AIGが選ばれる理由

AIGグループは、50年以上にわたり、世界の大手企業（オイルメジャー、エンジニアリング会社、物流会社、金融機関、通信会社、各種メーカー等）に対し、キャプティブフロントィング・ソリューションを提供してきました。このソリューションは、AIGのグループカンパニーやネットワークパートナーを通じて、200以上の国や地域で提供されています。

AIGは、現地の規制当局や他の利害関係者の要件を充足した、柔軟でコスト効率の高いフロントィングサービスを提供することができます。お客様は世界各国での保険証券発行能力やクレームサービス、再保険決済機能など、AIGグループのリソースをフルに活用することができます。



AIG 損害保険株式会社について

AIG 損害保険株式会社は、損害保険業界の世界的なリーダーであり、80以上の国や地域でお客様にサービスを提供しているAIGグループの一員です。

名称 (商号)	AIG 損害保険株式会社
英文名称	AIG General Insurance Company, Ltd.
創業	1946年 *2018年1月1日、AIG 損害保険株式会社として営業を開始しました。
本店所在地	〒105-8602 東京都港区虎ノ門4丁目3番20号
代表取締役社長 兼 CEO	ケネス・ライリー
国内営業店舗数	132 (2019年7月1日現在)
従業員数	7,719名 (2019年3月31日現在)



AIGグループは、世界の保険業界のリーダーであり、約80の国や地域で損害保険、生命保険、退職給付およびその他の金融サービスを幅広く提供しています。AIGグループの商品・サービスを通じた多岐にわたるサポートは、法人および個人のお客さまの資産を守り、リスクマネジメントおよび確かなリタイアメント・セキュリティをお届けします。持株会社 AIG, Inc. はニューヨーク証券取引所に上場しています。詳細は、ウェブサイト www.AIG.com をご覧ください。

AIG損害保険株式会社

〒105-8602 東京都港区虎ノ門 4-3-20